



はるぐち じゅんいち
春口 淳一 准教授

〃 出身地と名物など

千葉県 落花生

専門分野

日本語教育学

Q 担当科目を教えてください。

A

【日本語教育法1】

日本語を母語としない人に、どうやって日本語を紹介するか——その理論を講義するとともに、模擬授業を経験することで実践的に学ぶ授業です。当たり前に使ってきた日本語の難しさを発見することでしょう。

【第二言語習得論】

人間は基本的にひとつの言語(=母語)は問題なく操ることができますが、もうひとつとなるとなかなか難しいですね。この授業では、「どうして難しいのか」「どうしたらその難しさを軽減できるのか」を考えていきます。

Q 専門分野に関する研究テーマの魅力を教えてください。

A

日本語教育学は、外国語として日本語を学ぶ人をどう支えるかという学問です。その名の通り、日本語をどう教えるか、どう学ぶかも重要なテーマですが、最近の私の関心は日本へやってくる留学生にとっての魅力的な留学プログラムを検討することにあります。日本留学予備軍の声に耳を傾け、アフター・コロナにおける日本留学の可能性を考えてみたいと思います。日本の大学のグローバル化推進にも、ちょっと役立つ研究になるかも？



Q

先生の人となりをお教えてください。

A

「今だから言える先生の学生時代のエピソードは？」

大学時代、純邦楽（箏・三味線・尺八）のサークルに入り、一日中、部室に入り浸っていました。サークル最優先の大学生活で、授業にも部室から教室に通っているのが実態でした。今振り返っても、一番楽しい時間でした。

「お休みの日には何をされていますか？」

御朱印帖を片手に、お寺・神社を巡ります。修学旅行先が京都・大阪だった高校の頃を思い出しつつ、（当時と違って？）楽しんでいます。ちなみに、サークルで練習に励んだ楽器も、たまには手にします。

Q

学生のみなさんへメッセージを！

A

大学は人生の中でも特に自由な時間と言えるかもしれません。自分の関心を掘り下げ、思い描く自分の将来像に一步でも近づけるよう、この自由な時間を有効に活用しましょう。

とはいえ、勉強ばかりというのも味気ないかもしれません。私自身がそうだったように、サークルなど、仲間と共に過ごす時間もきっと人生の糧になります。

キャンパスであなたを待ち受ける「ヒト」と「モノ」とを活かし、最高の4年間をつくり出してください。もちろん、「ヒト」の中には大学教員である私も含まれますよ。